

## 本時のねらい

下書きした物語を見直し、清書を行う。

## 本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

キーボードの技能習得と共に、文章をじっくりと見直すきっかけとし、誤字脱字の訂正や文章の校正をする。

## 活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット PC ・Word

## 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○前時までに漢字の反復練習をする	
展開 (30分)	○下書きした文章を確認しながら清書をする  ○清書に誤りがないかを確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Word を活用し、清書をする活動を通してタイピングする力を身に付けさせる。</li> <li>・漢字が苦手な児童でもひらがなから変換をすることで、適切な漢字がどれか考え、選ぶ。</li> <li>・Word で作成した文章と下書きを見比べることで、自分の文章に誤字脱字がないか、また、文章として訂正する点はないか、気づくようにする。</li> </ul>
まとめ (5分)	○本時のふりかえりと次時への見直しを持つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時で打てた文章を前時のものと比較し、達成感を感じさせる。</li> </ul>

## 1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真1：下書きしたものをしながら Word を使って清書している場面

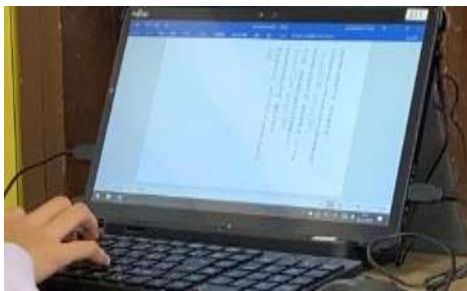


写真2：タイピングしている場面



写真3：清書に誤りがないかを確認している場面

## 児童生徒の反応や変容

- ・日ごろから頻繁にタイピングの活動時間を取り入れているので、ローマ字表を見なくてもスムーズに入力ができるようになった。
- ・紙に書いたものを見る時よりも、活字になったものの方が時間をかけて見直し、誤字脱字や表現について、何がどう違うのか確認することができていた。

## 授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・下書きを今までのように原稿用紙に清書すると、丸写しになり誤字脱字が訂正できないままになってしまうことが多いが、Word に打ち込むことで誤字脱字を波線で知らせてくれるため、気付いて直しをすることができる。正しい言葉の使い方の学習となった。
- ・未習の漢字も変換してくれるので「大じょう夫」などのひらがなまじりだとわかりにくい言葉が減った。
- ・印刷して児童に見せると、「かっこいい」と言って児童が自分の作品にさらに自信を持つことができていた。